

令和 7 年度小平市立鈴木小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかねば後々の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

- 全体の正答率は、全国の平均と同水準だが都平均よりは3.0ポイント下回っている。
- 学習指導要領の内容別に見ると「知識・技能」に関して、「情報の扱い方」については、全国平均より11.0ポイント、都の平均より8.0ポイント上回っている。しかし、「言語の特徴や使い方」と「我が国の言語文化」は、全国・都の平均を大きく下回っている。「思考力・判断力・表現力」に関しては、「書くこと」については全国・都の平均をわずかに上回っているが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国・都の平均を下回っている。
- 問題形式別にみると、どの形式も正答率が全国・都の平均を下回っている。

課題

- 「情報の扱い方」は高い数値を示している一方で、「言語の特徴や使い方」「言語文化」に関する知識は定着が不十分である。領域間のバランスに課題がある。
- 書く力は平均を上回っているが、読む・聞く・話す力が弱く、知識を活用して思考・表現につなげる力が十分でない。
- 問題形式を問わず平均を下回っており、設問の意図を正確に捉えたり、形式に応じて回答したりする力が高まっていない。

学校で取り組む具体的な改善策

- 古典や伝統的な言語文化にふれる機会を計画的に設定する。（短歌・俳句・古典の暗唱など）
- 学習した内容を発表・討論・レポートにまとめるなど多様な形式で表現させる。
- 教員間で授業研究を行い、特に「読むこと」「言語文化」の指導法を交流する。
- 学年ごとに「言語活動の重点」を明確にし、校内で系統性を意識した指導を進める。

【算数】

状況の分析

- 全体の正答率は全国の平均を2ポイント上回っており、都平均を4.0ポイント下回っている。
- 観点別に見ると「知識・技能」は全国の平均を3.7ポイント上回ったものの、都の平均を2.3ポイント下回った。一方「思考・判断・表現」は全国の平均とほぼ同程度だったが、都の平均を約5ポイント下回っている。
- 領域別では5領域全てで全国平均を上回ったが、都の平均は下回った。5領域を比較すると「B 図形」の領域が課題であり「C 変化と関係」の領域が高かった。

課題

- 知識を活用して自分の考えを言葉や式で説明する力が十分に高まっていない。
- 図形領域において、性質の理解や面積の考え方を柔軟に扱う力に課題がある。
- データやグラフを活用し、根拠をもって判断する力に課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- 答えを出すだけでなく、「どのように考えたか」を説明させる場面を各単元に設定する。
- 図形領域では操作活動や具体物を用いた活動を重視し、性質を根拠付けて表現する力を育てる。
- データの活用の問題では、複数のグラフを比較し、目的に応じて選択させる活動を取り入れる。
- 全教科で「根拠をもって説明する活動」を位置付け、思考・判断・表現の力を横断的に高める。

【理科】

状況の分析

課題

- 全体の正答率は全国・都の平均をいずれも上回った。(全国+3.9ポイント、都+1ポイント)
- 観点別に見ると、「知識・技能」全国平均を6ポイント上回り、都の平均を3.6ポイント上回った。一方「思考・判断・表現」は、全国平均を2ポイント上回ったが、都の平均を2.0ポイント下回った。
- 領域別に見ると、「粒子を柱とする領域」は都の平均を2.0ポイント下回ったが、他の領域は全て全国・都の平均を上回った。

- 身近な現象や素材(例：金属の性質)について、基礎的な知識が十分に定着していない部分がある。
- 観察・実験の方法を振り返り、適切さを検討して表現する力がやや弱い。
- 状態変化の知識を活用し、科学的な根拠を基に予想・説明する力に課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- 身近な素材や現象を扱い、知識を体験的に確認する場を設ける。
- 実験や観察の結果をグループ等で話し合い、実験方法の妥当性を比較・検討する活動を増やす。
- 予想や考察を書く際に「根拠となる事実」と「自分の考え」をセットで表現する指導を徹底する。

【質問紙】

状況の分析

課題

- 全体的に「学校での学習」、「自尊感情」の領域に関して肯定的な回答をしている児童が、全国平均と都の平均をやや下回っているものが多い。
- 困りごとや不安を先生や大人に相談できる児童が少なく、全国・都の平均を下回った。
- ICTの活用に関する質問では、多くの項目で全国・都の平均を上回っている。
- 学んだことを生かして考えをまとめる活動は、全国・都を上回っている。
- 学級会での話し合いや努力につなげる取組が、全国・都の平均を上回っている。

- ・「自分には、よいところがある」という質問において、肯定的な回答が全国・都の平均を下回っており、自己肯定感での課題がみられる。
- ・困りごとや不安を感じても、大人に相談しにくいと感じる子が少なくない。
- ・国語、算数、理科の学習に対して「好き」「得意」と、前向きな気持ちをもっている児童が十分に多くない。

学校で取り組む具体的な改善策

自己肯定感の向上

- ・他者からの評価と自分の振り返りを重ねることで、自信をもつ実感が強まる。
- ・「ありがとう」「助かったよ」といった日常の肯定的な言葉を教師が積極的に使い、児童同士にも広げていく。

相談しやすい環境づくり

- ・学級で「困った時の相談先」を共有し、具体的にイメージできるようにする。
- ・学級会や道徳の時間に、「困ったときの行動」について考える活動を取り入れる。

学習に対して前向きに取り組む姿勢

- ・小さな「できた」を積み重ねて自信につなげる。
- ・授業や活動の中で得意なことを学級やグループの活動に生かせる仕組みをつくる。